



色絵の器

—天啓赤絵・呉州赤絵・古伊万里赤絵—

2017年

6月27日(火) - 8月27日(日)

[上より時計回りに] 色絵人物山水文皿(呉州赤絵) 径34.4cm / 色絵波文輪花形皿(天啓赤絵) 径15.1cm / 色絵赤玉文香合(呉州赤絵) 径6.7cm 明時代 17世紀前半(3点とも) / 色絵芦鷺文皿(古九谷五彩手) 江戸時代 17世紀中葉 径19.8cm
〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 Tel.03-3467-4527 交通・京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

日本民藝館

<http://www.mingeikan.or.jp/>



〔呉州赤絵〕

1. 色絵赤玉花卉鳳凰文皿 明時代 17世紀前半 径37.8cm
2. 色絵瓢箪瑞獸文皿 明時代 17世紀前半 径36.8cm

〔天啓赤絵〕

3. 色絵梅樹文角筆筒 明時代 17世紀前半 高14.2cm
4. 色絵魚介文鮑形鉢 明時代 17世紀前半 幅27.0cm
5. 色絵丸文繁鉢 明時代 17世紀前半 幅22.7cm

〔古伊万里赤絵〕

6. 色絵牡丹文角瓶 江戸時代 18世紀前半 高20.2cm
7. 色絵蓮池翡翠文皿 江戸時代 17世紀中葉 径36.4cm
8. 色絵柳文壺 江戸時代 17世紀中葉 高21.9cm

1	2	3
4	5	6
7	8	

色絵（中国では五彩）とは、高温で焼き上げた陶磁器に絵付を施し、再度焼成して上絵具を器表に定着させる装飾技法です。柳宗悦（1889～1961）が創設した当館の色絵磁器コレクションは、中国・明時代末期に江西省の景德鎮民窯で焼かれた天啓赤絵と、福建省の漳州窯で焼かれた呉州赤絵、そして九州・肥前地方の伊万里焼が中心となっています。

天啓赤絵と呉州赤絵は、どちらも粗製の素地と釉薬による中国製の雑器ですが、「侘び茶」の価値観が育まれていた日本ではその粗放さが逆に好まれ、茶道具や富裕層を始めとする什器として、江戸時代から用いられてきました。一方で本国の中国では残存例の確認が難しいことから、

特に日本人の美意識に合致した色絵磁器と見做すことができます。

日本では肥前の有田で、1610年代に朝鮮陶工の技術により磁器生産が始まりましたが、17世紀半ば、明王朝の崩壊に伴い中国陶磁の輸出が激減すると、肥前でも色絵の技術が生まれます。大正末期に始まった民芸運動の中で伊万里焼に目が向けられたこともあり、日本民藝館にも17世紀半ばに始まった肥前の色絵磁器が所蔵されています。

本展では、柳が好んだこれらの色絵磁器を展示するとともに、濱田庄司（1894～1978）を始めとする工芸作家によって試みられた色絵の陶磁器を併せて展覧し、色絵の器の魅力を紹介するものです。

記念講演会 日本民藝館の色絵について（仮称）

〔講師〕 矢島 律子（町田市立博物館学芸員）

8月5日(土) 18:00-19:30

〔料金〕 300円（別途入館料が必要） 〔定員〕 100名（要予約）

□開館時間 10:00～17:00（入館は16:30まで） □休館日 月曜日（ただし祝日の場合は開館し、翌日振替休館）
 □入館料 一般 1,100円 大高生 600円 中小生 200円 □西館公開日（旧柳宗悦邸） 会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜（開館時間10:00～16:30、入館は16:00まで） □所在地 〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 □電話 03-3467-4527 □交通 京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

<http://www.mingeikan.or.jp/>

日本民藝館

